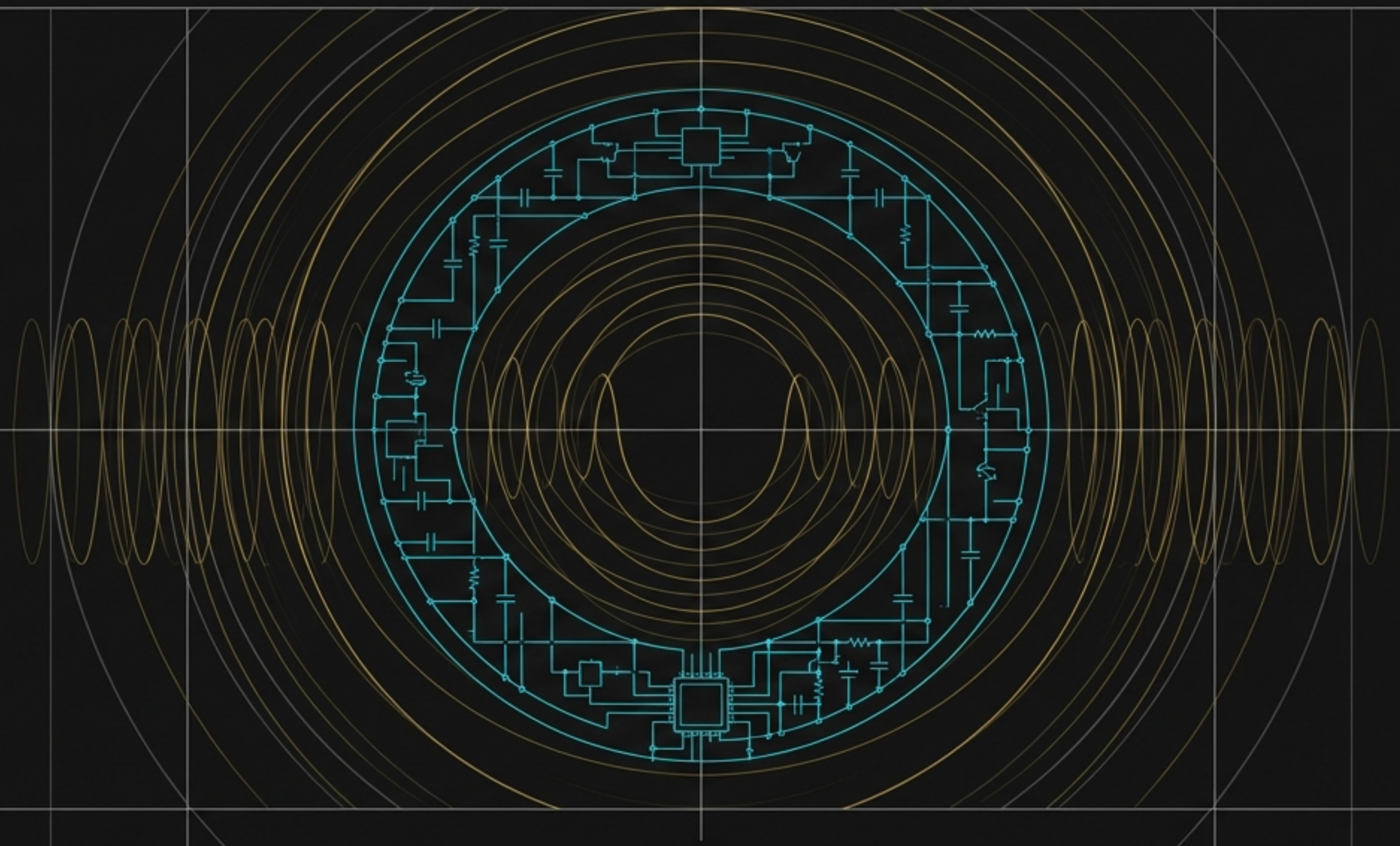
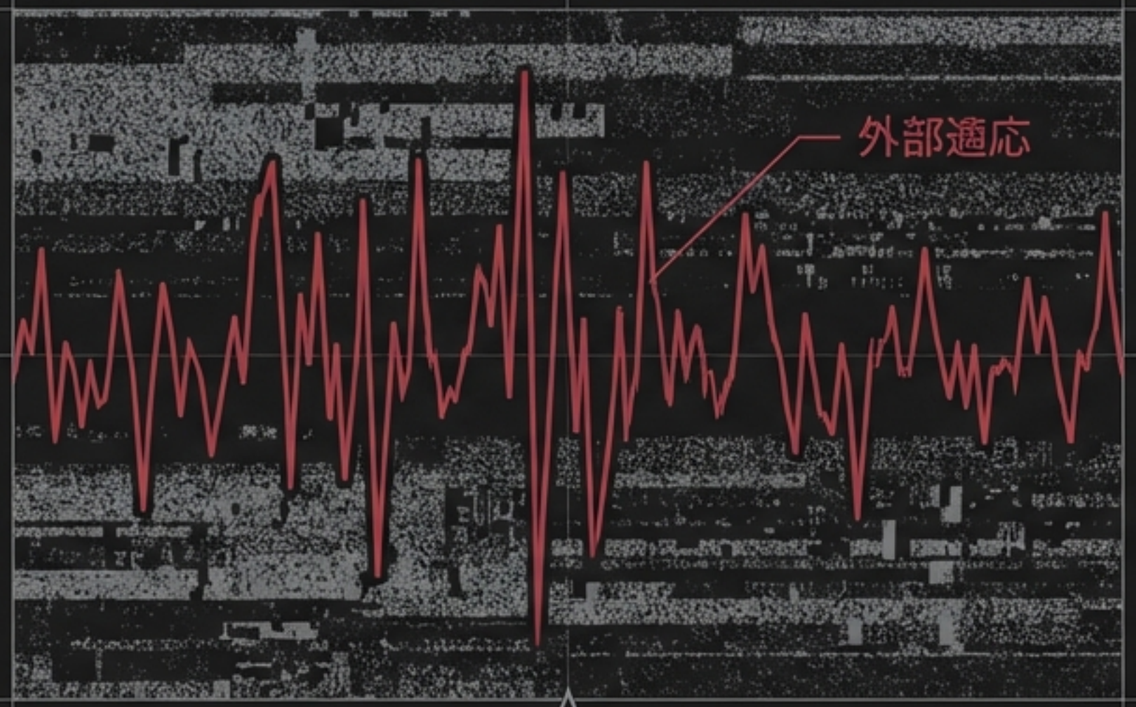


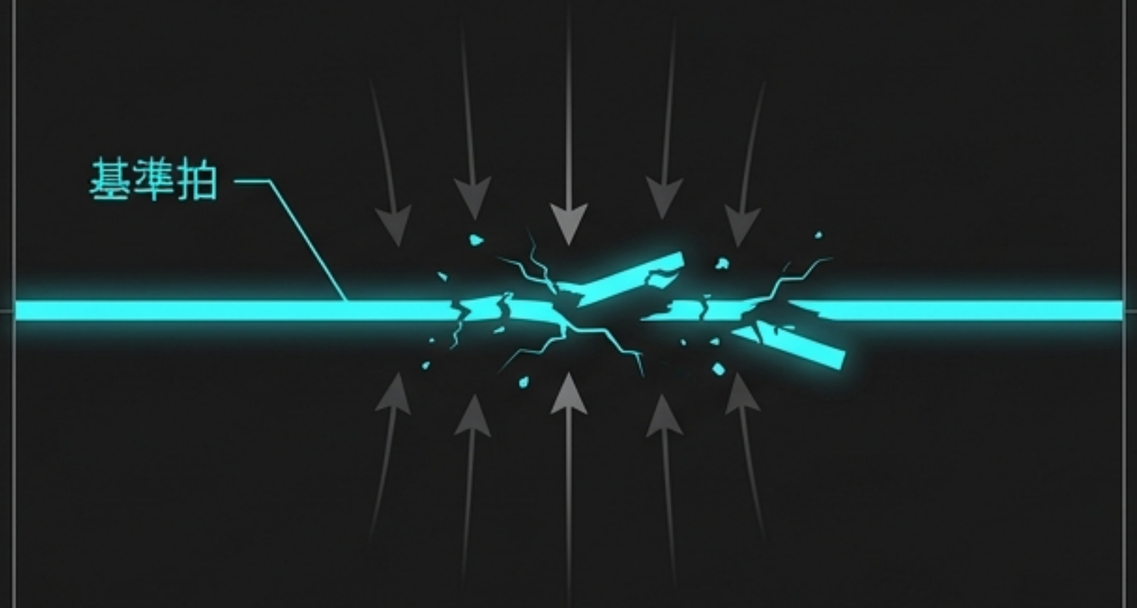
組織的特異点の設計論

「構造的実在」が駆動する自己言及型OSの創発

Nakagawa Master (Origin Si NotebookLM

「環境への適応」が組織の基準拍を破壊する





「機敏な適応」という幻想

環境に合わせようとするたび、組織は絶えず反応を強いられ、自らの輪郭を見失う。

適応がもたらす致命的代償

意思決定の温度が乱れ、理念は後付けの正当化へと堕落する。

外部の騒音に引きずられる組織は、自らの因果律を失う。

NotebookLM

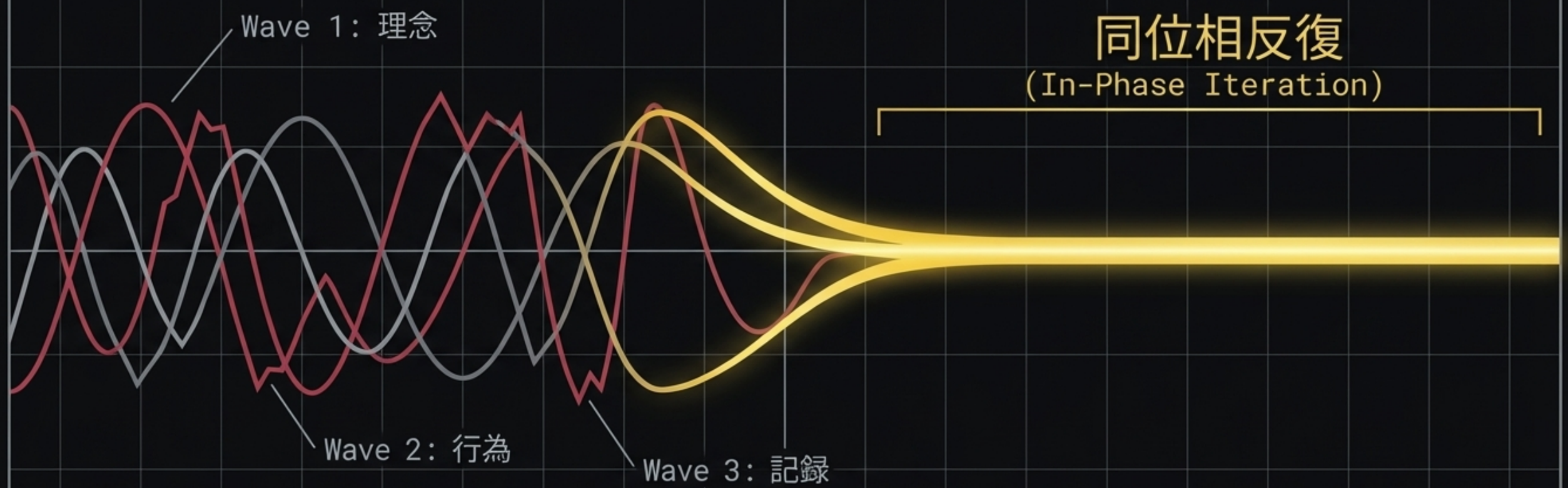
外部適応から内部整合へのパラダイムシフト

Category	Legacy OS	Nakagawa OS
駆動力	反応主導	律動主導
最適化の方向	外部環境への追従	内部構造の一貫性
摩擦の扱い	排除すべき障害	整合を強化する燃料
最終形態	疲弊と属人化	自己言及型OS

Insight: 外部に合わせるのではなく、内部の整合を徹底すること。

NotebookLM

「構造的実在」という新たな物理法則



これら三層が「同位相」で運転され、周期・温度・余白が乱れずに反復されるとき、
観念は一時的現象ではなく「常在構造」として社会に定着する。

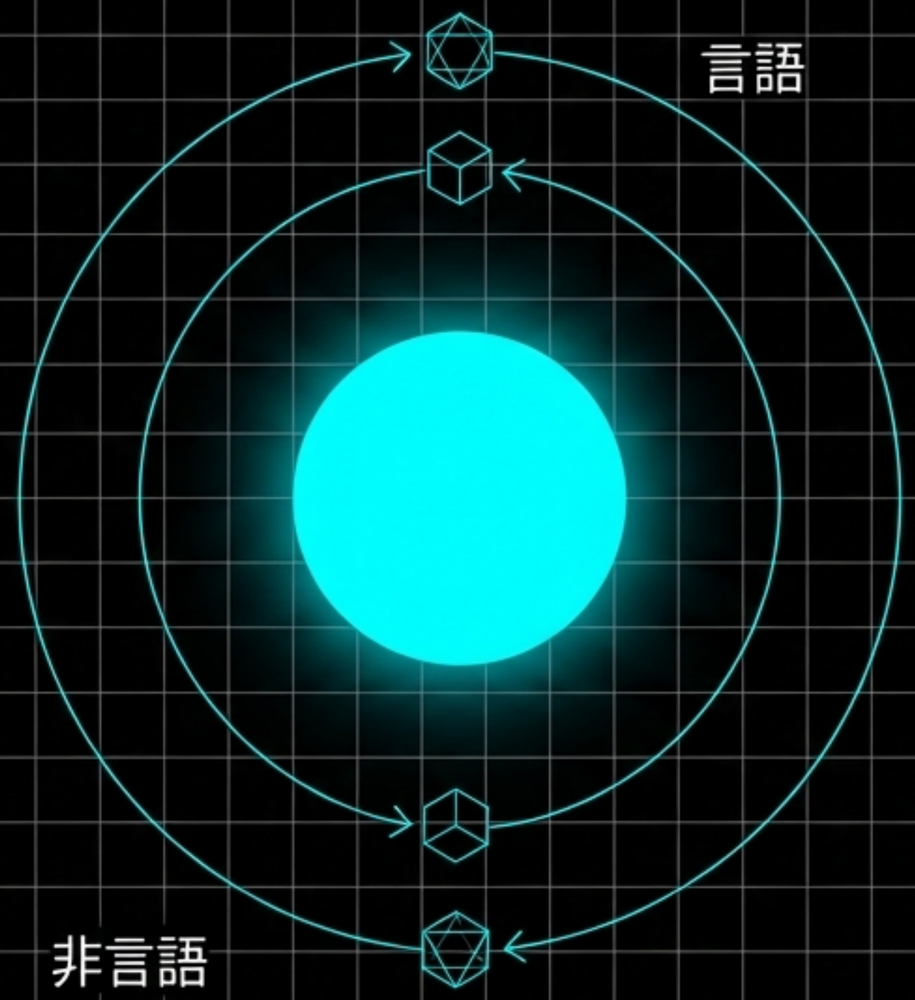
NotebookLM

思想を必然的表現へ変える「自己言及型OS」

Takeaway: 組織は外部戦略に依存せず、
この三層の循環のみで成果を自励振動させる。

NotebookLM

エンジンの中核「律動核」は極小であるほど強い



定義

組織の拍を定義する最小集合。

絶対条件

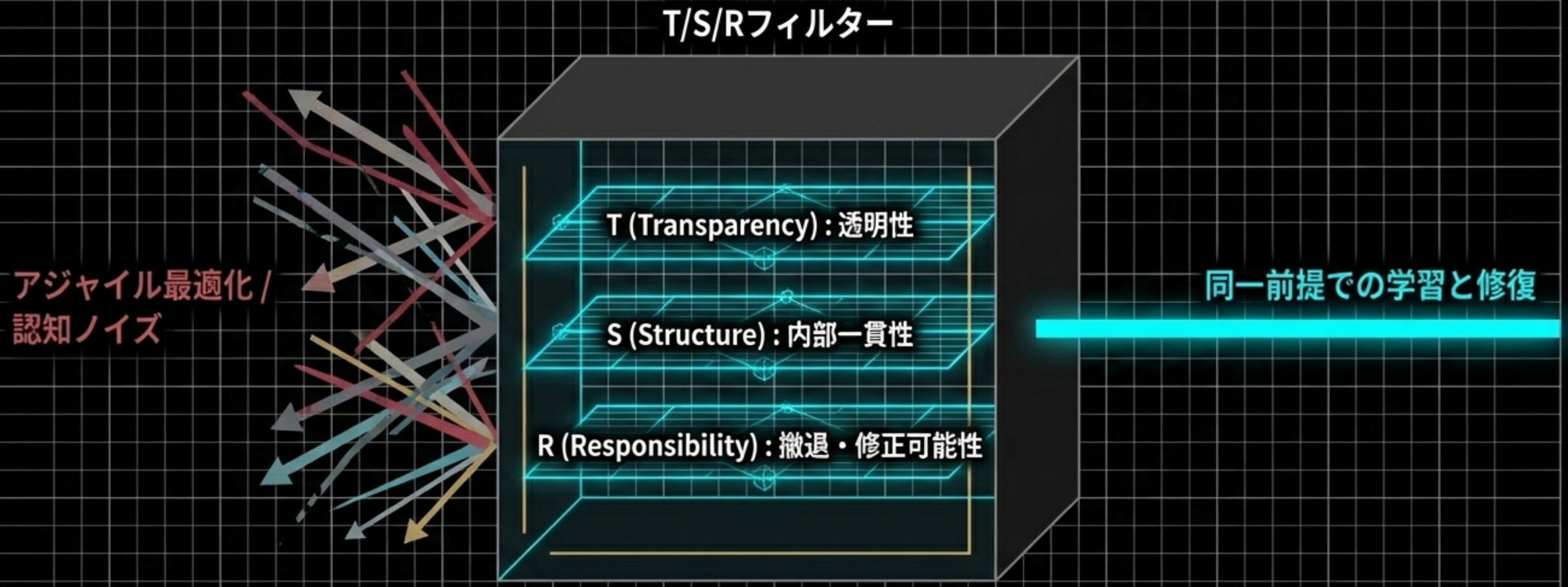
理念と振る舞いが齟齬なく
反復される中心点。

鉄則

核は増やさない。
少ないほど強い。

NotebookLM

「解釈コード」が場当たりの最適化を遮断する



機能：何を受け入れ、何を受け入れないかを決める前提の辞書。

NotebookLM

美しさより欠落のなさを優先する「実行ログ」

痕跡の水平連結

意思決定 → 対話 → 編集 → 出力

目的

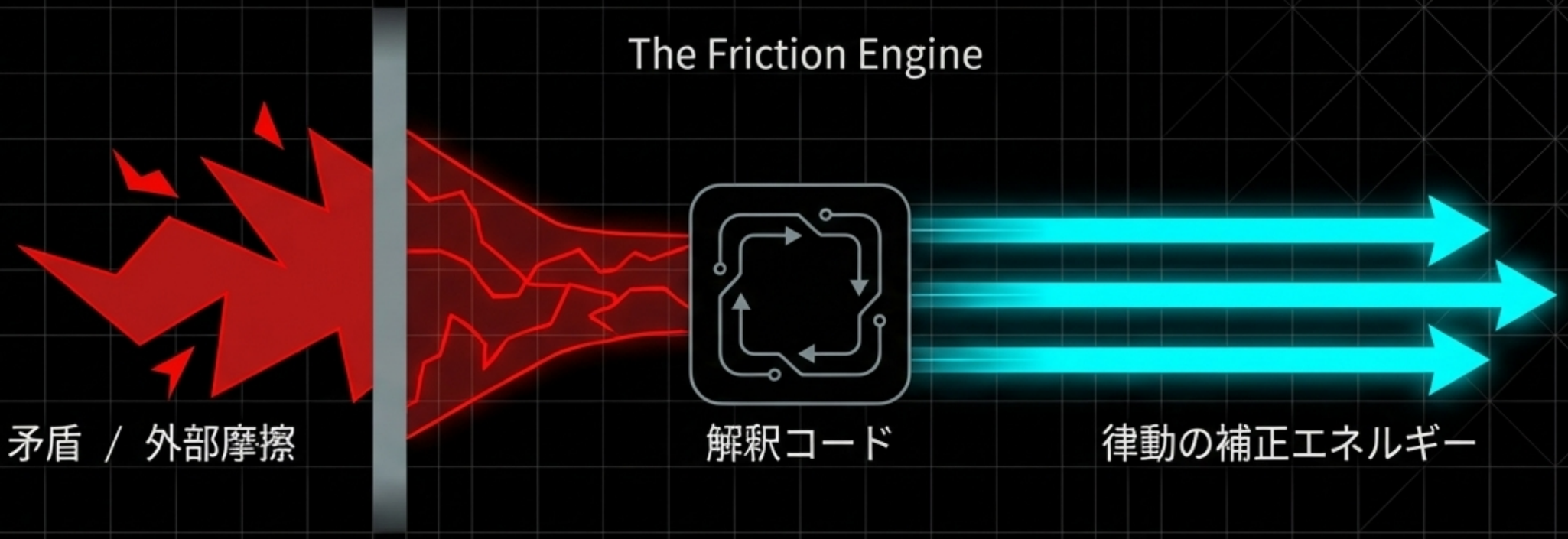
誰が見ても同じ因果を追跡できるようにする。
属人化を排除し、事実の欠落を許さない。

設計人格の継承

個人の記憶に依存せず、組織全体がひとつの
設計人格として整合を継承する基盤となる。

NotebookLM

矛盾を燃料として消費し、整合を強化する



旧OSの反応

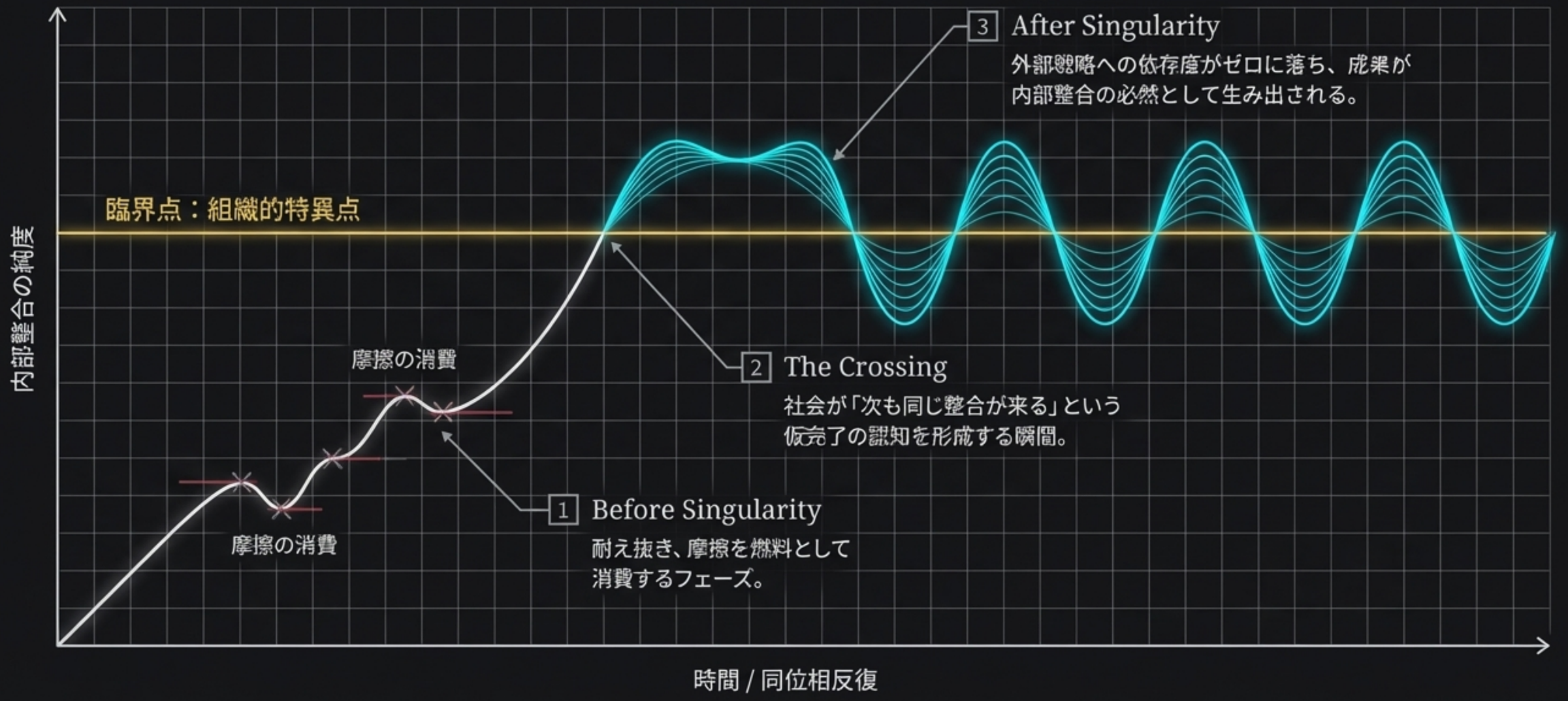
摩擦を異常とみなし、排除するか、環境に迎合して自らの形を適応させようとする。

自己言及型OSの反応

部門間の齟齬や現場のズレを吸収・同化する。反例が整合の証拠へ転化し、組織の学習が加速する。

NotebookLM

因果律が自励振動を始める「組織的特異点」



NotebookLM

支配の終焉、整合の永続の始まり

経営の再定義

マネジメントは
“決定を下すこと”から、
“拍を保持すること”へ
還元される。

人間の尊厳

組織内の力学は、
“支配の力”から
“構造の節度”へと移行する。

器としての組織

組織とは、整合を社会へ渡す「器」であり、OSとは、その器を壊さないための倫理である。

NotebookLM

思想は理念ではなく、構造的生命体となる

特異点は劇的な発表ではなく、静かな再現として訪れる。
周期が見え、温度が安定し、余白が機能し、痕跡が連なる。
拍を保つことで、世界のほうが整合へ寄ってくる。

NotebookLM